

知財部門における生成AI活用推進プラン

レベル2'：業務適用フェーズ

～セキュリティ担保環境での秘密情報活用による知財戦略革新～

2025年09月23日

© 2025 知的財産部

レベル2'の基本方針

セキュリティ担保

知財ツールベンダーの提供環境で秘密情報を入力可能

専用のセキュアな環境でAIと連携し、未公開情報も安全に活用

業務本流への統合

PoCから日常業務の一部へ本格展開

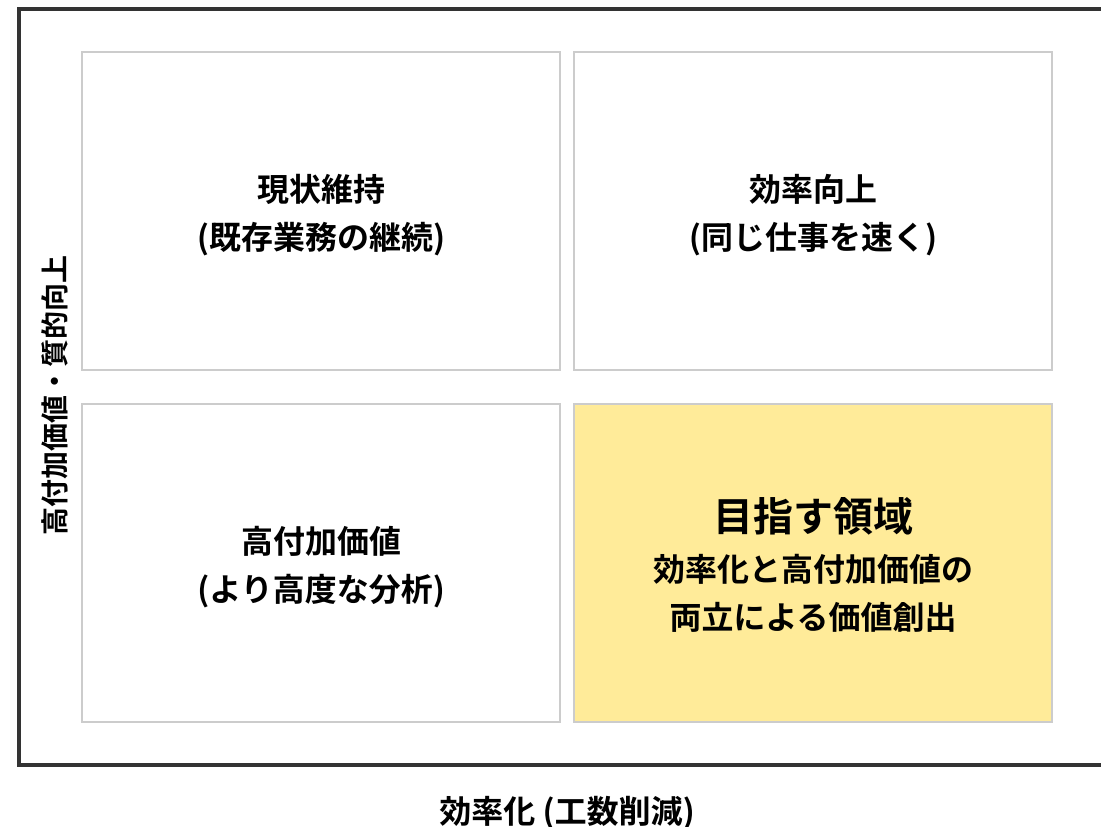
実証段階から通常業務へと生成AIの活用領域を拡大

レベル1→レベル2'の進化



レベル2'で本格参入
秘密情報活用による
戦略的価値創出

効率化×高付加価値の2軸マトリクス



ユースケース① 出願戦略シミュレーション

目的

自社未公開アイデア＋公開特許を組み合わせた **出願戦略立案**

プロンプト例

「以下の自社秘密技術アイデアを入力します：[秘密アイデア]
これに関連する公開特許群と比較し、最適な出願タイミングと国別優先度を提案してください。」

期待される成果

効率化：

外部調査依頼 2週間 → 即時

高付加価値：

秘密アイデアに即したリアルな出願シナリオ策定
顧客ニーズ・競合動向・技術トレンドを総合的に考慮した最適化戦略

プロセス変化：従来とAI導入後の比較

従来プロセス（数週間）

1. アイデア記述書作成（1日）



2. 外部調査会社依頼（1日）



3. 先行技術調査実施（1-2週間）



4. 社内で出願検討会議（半日）



5. 出願戦略策定（1-2日）

AI導入

AI活用プロセス（即時）

1. アイデア＋関連キーワードをAIに入力



2. AI処理：公開特許との即時比較分析



3. 複数出願シナリオ・国別優先度の即時提案

ユースケース② 秘密資料を含む競合分析

目的

社内レポート＋公開特許・ニュースを統合し **競合の強み・弱みを精緻評価**

プロンプト例

「以下の社内調査資料を入力します：[秘密レポート]
この情報と公開データを統合分析し、A社の強み・弱みを5年視点で評価してください。特にサステナビリティ技術領域に注目してください。」

期待される成果

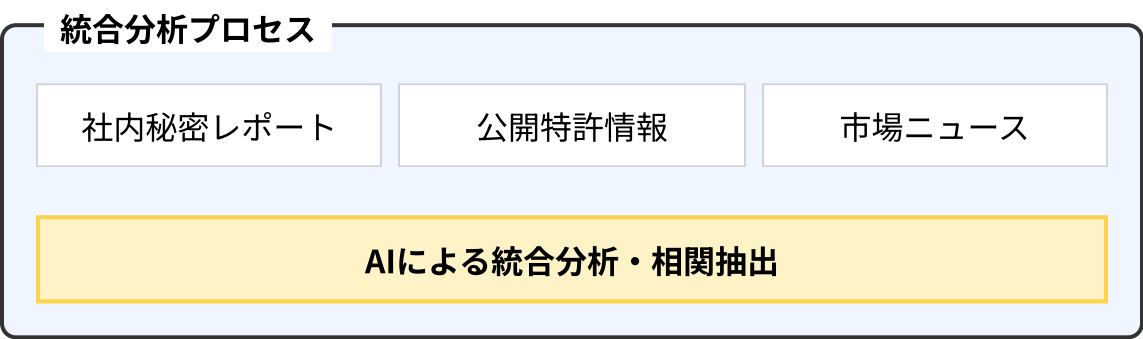
効率化：

資料突合せ 3日 → 0.5日

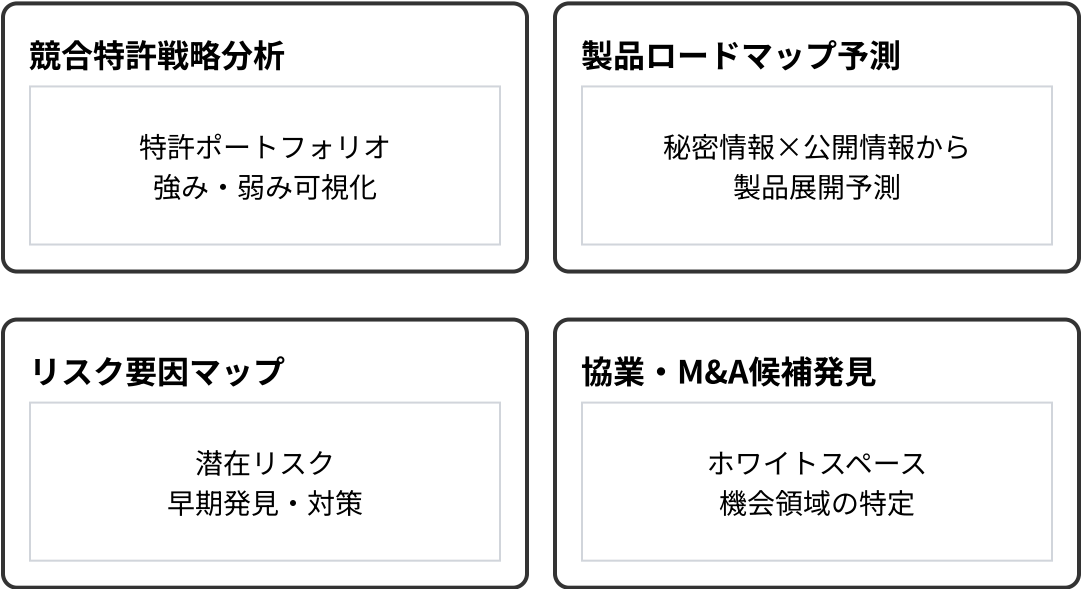
高付加価値：

公開情報だけでは得られない競合戦略の精緻化
社内レポートと公開データを組み合わせた包括的な競合分析により、具体的な戦略立案が可能に

統合ダッシュボード／マトリクス図



競合分析統合ダッシュボード



ユースケース③ 発明創出ワークショップ支援

目的

秘密技術課題から 用途展開案や解決策を抽出

プロンプト例

「当社の秘密技術課題について入力します：[秘密課題の詳細]
この課題に対して、異業種での応用可能性を含め、新規用途案と
技術的解決策を10件提案してください。各案の新規性と実現可能性も評価してください。」

期待される成果

効率化：

アイデア収束 → 3倍速

高付加価値：

新規発明領域の発見

異分野知識の融合による盲点領域の開拓と特許網構築の可能性向上

発想展開フロー：従来とAI活用後の比較

従来のワークショップ（半日～1日）

1. 課題の説明・共有（30分）



2. アイデア出し・付箋作成（60分）



3. グループینگ・整理（30分）



4. アイデア評価・選定（60分）

AI導入

AI活用ワークショップ（2時間程度）

1. 課題をAIに入力・初期案生成（10分）



2. AI生成案をたたき台に議論（40分）



3. 議論内容をAIに再入力・精緻化（10分）



4. 優先順位付け・次アクション決定（30分）

ユースケース④ 契約・訴訟対応シナリオ策定

目的

秘密契約書×公開判例データでAIリスク診断と交渉論点抽出

プロンプト例

「以下の当社秘密契約書を分析してください：[契約書内容]
この契約書と公開判例データを比較し、潜在的なリスクマップと交渉すべき重要論点を提示してください。」

期待される成果

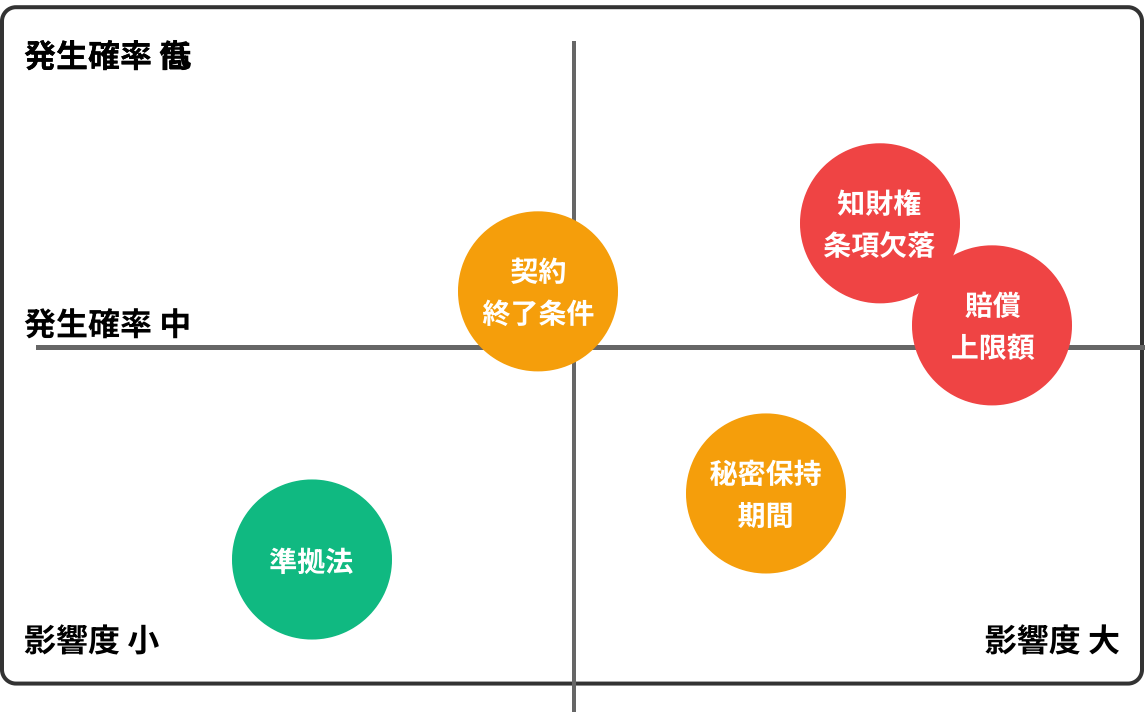
効率化：

契約チェック 数日 → 数分

高付加価値：

非公開情報を含む高精度リスク分析
過去判例と契約条項を組み合わせた包括的な交渉戦略提案

リスクマップ+交渉論点リスト



重点交渉論点リスト

- ① 知的財産権条項：共同開発成果の帰属が不明確
- ② 賠償責任上限：市場平均と比較して自社不利
- ③ 秘密保持期間：競合他社と比較し短期設定
- ④ 契約終了条件：一方的解除権の相手方有利条項

まとめとアクションプラン

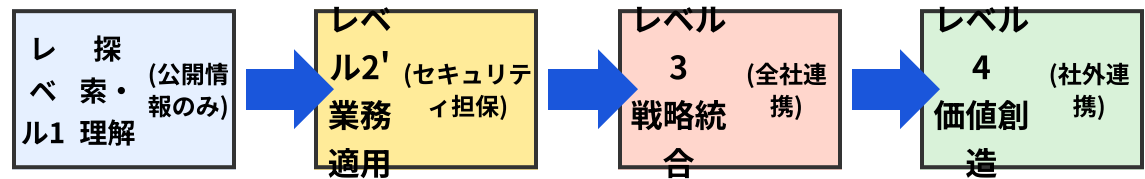
レベル2'の狙い・意義

- **セキュリティ担保環境** で秘密情報も安全に活用
- 単なる効率化から **価値創出領域** へと本格参入
- 個別業務実証から **日常業務の一部** へと定着

アクションプラン

1. **ベンダー選定と契約締結（1ヶ月）**
セキュリティ要件を満たす知財AI専門ベンダーと契約
2. **部門代表ユーザー任命（2週間）**
各チーム1名の代表ユーザー選出と教育実施
3. **業務フロー組込み（1ヶ月）**
既存業務フローにAI活用ステップを正式に組込み
4. **効果測定と報告（四半期ごと）**
定量・定性効果を測定し経営層へ報告

生成AI活用のステップアップ



現在地：レベル2'
セキュリティ担保環境での秘密情報活用段階

PoC → 本番導入フロー

1. 各ユースケース検証（2週間×4）
2. 限定ユーザーによる試験運用（1ヶ月）
3. 業務プロセス組込み・マニュアル整備（1ヶ月）
4. 全社展開・定着化（四半期ごとレビュー）